

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立小松小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語、算数については「全国平均正答率」よりやや低いレベルにありましたが、理科については、やや高いレベルにありました。質問紙調査では、「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」「読書は好きですか」の質問に全国の状況と比較して肯定的な回答をした児童が多かったです。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に全員が肯定的な回答をしていました。縦割り活動をはじめ、家庭・地域と連携を図りながら進めている日常的な教育活動の成果と考えています。

《強み・弱み》

国語科では、「話すこと・聞くこと」の領域において良好な結果が得られました。これは、日頃から目的をもった話し合い活動に取り組んでいる成果と考えられます。一方、「書くこと」では、「条件を整えて書く」「情報を選んで書く」といった力に課題があり、情報を整理・選択し、表現を決定する力の育成が必要です。ただし、無回答率は低く、多くの児童が記述に意欲的に取り組んでいる様子が見られます。算数科では、「数と計算」「データの活用」において高い正答率が見られ、日頃の基礎的な学習が成果として表れています。一方で、「図形」領域の作図や、情報を整理して筋道を立てて考える力には課題があり、情報の取捨選択や活用力の育成が必要です。こちらも無回答率は低く、最後まで粘り強く取り組む力が本校の強みといえます。理科では、全体的に全国平均を上回る結果となり、特に「生命」「粒子」を中心とする領域で高い正答率を示しました。観察や実験を通じた科学的思考力が身につけていることがわかります。質問紙調査では、「読書活動」への高い意識が見られ、「人の役に立ちたい」「幸せを感じる」など、自身の生き方や幸福感に関する項目でも肯定的な回答が多く見られました。一方、「地域や社会をよくしたい」「困っている人を助けたい」といった他者や社会への意識はやや低い傾向が見られました。今後は、異年齢活動や地域との交流を通して、「よりよくなりたい」「人や社会の役に立ちたい」という意識を育てていきたいと考えます。

【指導の充実に向けて】

1. 基礎学力の定着と表現力の向上に向けた教科指導の充実

国語科では、本校独自の取り組みである「音読名人」や「作文名人」を引き続き実施し、子どもたちの読む力・書く力の育成を図ります。算数科では、具体物の活用や量感を大切に授業を工夫し、子どもたちが日常生活との関連の中で数学的な考え方を身につけられるよう指導します。理解の深まりとともに、自ら考える姿勢を育てる授業づくりを進めます。理科では、体験的な学びを大切にしながら、科学的に考える力をさらに伸ばせるような授業の工夫を続けていきます。また、読書習慣の定着を図るため、朝の読書タイム、学級文庫の充実、図書館の団体貸出の活用、さらには地域ボランティアによる読み聞かせなど、様々な取組を通じて読書活動を推進します。豊かな言語感覚や思考力、表現力の土台づくりに努めます。

2. 主体的・対話的で深い学びの推進

児童が自ら問いをもち、学びを深める場面を設定します。例えば、疑問に思ったことを調べる、自分の学習方法を選ぶ、iPadを活用して情報収集を行うなど、自己決定・自己解決の場を大切にします。また、友達と意見を交換し、互いの考えを認め合う対話的な学びを通じて、多面的・多角的に物事を見る力を育てていきます。

3. 基礎的・基本的な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成

「相手の目を見て話を聞く」「気持ちのよい話し方をする」等、基本的な生活習慣について、全校で共通の視点をもって継続的に指導していきます。また、異年齢児童との活動や地域の方々との交流の場を増やすと共に、自己有用感を高められるよう、子どもたちが主体的に活動し、他者と関わる中で「自分も役に立ちたい」「よりよくなりたい」という意識を高めていけるような機会や場作りに努めてまいります。